



日本対がん協会賞・朝日がん大賞の受賞者決定

公益財団法人日本対がん協会(会長 垣添忠生・国立がん研究センター名誉総長)は、がん征圧活動に功績のあった方々に贈る「日本対がん協会賞」(個人の部、団体の部)と、その特別賞である「朝日がん大賞」について、2026年度の受賞者を決定しましたので、お知らせいたします。

●朝日がん大賞 堀部 敬三氏

●日本対がん協会賞

個人の部: 植野 映氏、鎌田 収一氏、佐川 庸氏、西田 正人氏

団体の部: 生命の駅伝(上村泰子理事長)

* 受賞理由等は別紙をご参照下さい。

両賞の表彰式は、9月の「がん征圧月間」に合わせ、9月11日(金)に秋田市で開催する「がん征圧全国大会 秋田大会」で行います。

■お問い合わせ先■

日本対がん協会 広報(遠藤)

Tel : 03 3541 4771

Fax : 03 3541 4783

Mail : jcskouhou@jcancer.jp

URL : <https://www.jcancer.jp/>

2026年度「日本対がん協会賞」「朝日がん大賞」受賞者

【朝日がん大賞】

堀部 敬三(ほりべ・けいぞう)氏 73歳

国立病院機構名古屋医療センター 上席研究員

受賞理由:「小児がんやAYA世代のがん研究を主導し、全国規模での基盤整備に貢献」

1996年に小児白血病研究会の立ち上げ、2003年の日本小児白血病リンパ腫研究グループ設立を主導した。全国規模での共同研究を進めるための基盤整備に努め、エビデンスに基づいた小児白血病の標準治療の確立に貢献した。

また、2018年には「AYAがんの医療と支援のあり方研究会」(AYA研)を設立した。15～39歳の思春期から若年成人までのAYA世代は、ライフイベントが集中するため、がんを発症すると様々な困難に直面する。全体の発症率から見ると少ない世代で孤立しがちになるなかで、AYAがんサポート研修など多職種による支援態勢の構築を進めた。小児やAYA世代のがんを取り巻く環境の改善に顕著な貢献をした。

《朝日がん大賞》 日本対がん協会賞の特別賞として、2001(平成13)年に朝日新聞社の協力により創設されました。①がんの予防や検診のあり方等の研究で、将来期待される成果を挙げた個人・団体、②画期的な検診機器の開発に関して功績を挙げた個人・団体、③患者・治癒者を支える研究や活動などで顕著な貢献をした個人・団体に贈られます。2025年度までに27個人・団体が受賞しています。

【日本対がん協会賞】

◆個人の部(50音順 年齢は2026年9月1日現在)

茨城県

植野 映(うへの・えい)氏 75歳

医療法人社団TIBC つくば国際プレスト&レディースクリニック院長

受賞理由:乳がん検診において、長らく「超音波検査は補助的」と位置付けられていたなかで、超音波診断学と診断ガイドラインの確立により、乳房超音波検査の普及に尽力した。また、超音波併用による乳がん検診の有効性を検証するランダム化比較試験(J-START)の研究協力者として技術支援を行い、超音波による乳がん検診の標準化に寄与するなど、乳房超音波診断学の構築、標準化、教育、普及に貢献した。

秋田県

鎌田 収一(かまた・しゅういち)氏 71歳

介護老人保健施設なぎさ施設長

受賞理由:1984年から秋田大学医学部付属病院に勤務し、外科医として胃がんや大腸がんなどの治療に従事し、2007年以降は乳腺専門医として乳がん診療に携わった。氏は2004年から秋田県医師会乳がん検診中央委員会副委員長、2006年から秋田県医師会乳がん検診中央委員会委員長などを務めた。長年、後進の育成、読影医の確保、診断体制の確立に貢献するなど秋田県の乳がん検診の発展に貢献した。

愛媛県

佐川 庸(さがわ・ていり)氏 68歳

伊予鉄グループ診療所長、元愛媛県立中央病院副院長

受賞理由:長年にわたり、愛媛県立中央病院で乳腺・内分泌外科医として診療に従事し、副院長として病院運営、地域医療の発展に尽力した。特に乳がん診療の分野では、専門的知識と経験に基づく質の高い医療を提供し、愛媛県内の乳がん治療の充実発展に寄与。学術面でも、日本乳癌学会中国四国地方会の活動に積極的に参画し、診療水準の向上に貢献した。

茨城県

西田 正人(にしだ・まさと)氏 80歳

国立病院機構霞ヶ浦医療センター 特別診療役・名誉院長

受賞理由:1980年から茨城県支部(旧茨城県対ガン協会)の子宮がん細胞診断に従事し、1998年からは子宮がん細胞検査診断委員会の代表世話人として、細胞診断の精度向上と細胞診専門医や細胞検査士の育成に積極的に従事した。また、茨城県生活習慣病検診管理指導協議会の会長として、茨城県の子宮がん検診の推進を牽引してきた功績は大きい。

【日本対がん協会賞】

◆団体の部

三重県

特定非営利活動法人 生命の駅伝 上村 泰子(うえむら・やすこ)理事長

受賞理由:特定非営利活動法人「生命の駅伝」は、30年以上にわたり、市民参加型のチャリティー活動を通じて、がん研究の支援とがん検診の普及啓発に取り組みを続けてきた。その活動は、多くのひとをつなぎながら、三重県のがん対策を支える大きな力になっている。チャリティー活動は、多くの若手研究者らの研究活動を支えて、診断・治療法の開発にも貢献している。

《日本対がん協会賞》

日本対がん協会設立10周年にあたる1968(昭和43)年に創設されました。がん予防をはじめ、広くがん征圧のための運動、事業、研究に顕著な功績のあった個人と団体、多年にわたって地道な活動を続けてきた個人と団体に贈られます。2025年度までに個人の部で269人、団体の部で134団体が受賞しています。

《2026年度 選考委員会》

委員長 垣添 忠生(日本対がん協会 会長)

副委員長 大内 憲明(東北大学大学院 医学系研究科 特任教授、
東北大学名誉教授)

選考委員 梅田 正行(日本対がん協会 理事長)

(50音順)

佐野 武(がん研究会有明病院 名誉院長)

津金 昌一郎(国際医療福祉大学大学院 医学研究科

公衆衛生学専攻 教授)

辻外記子(朝日新聞東京本社 暮らし科学医療部 部長)

松本吉郎(日本医師会 会長)

以 上